

## 令和7年度 県立霞ヶ浦聾学校 自己評価表

No. 1

目指す学校像	<p>◆安全・安心な環境のもと、楽しく元気に学べる学校</p> <p>◆一人一人の学びを大切に、豊かなコミュニケーションと日本語の力を育み、生きる力を育てる学校</p> <p>◆幼児児童生徒、教職員みんなが自信と誇りをもてる学校</p> <p>◆保護者、社会、関係者と共に歩む開かれた学校</p>		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>(成果) 災害等の避難訓練の様子や実施後の児童生徒へのアンケート結果を家庭と共有することで、自己管理能力の育成につながった。</p> <p>(課題) 緊急時の教職員の動きについて、全職員が基本を確認した上で臨機応変に対応ができるようにする。</p>	1 安全安心な学校づくりと健康で豊かな心の育成	<p>①安心安全な教育環境の整備 【危機管理】【コンプライアンスの確保】</p> <p>②自ら健康・安全に生活する力の向上 (健康教育、防災教育)【自己管理能力の育成】</p> <p>③信頼し絆を深める人間関係づくりの推進 【豊かな心の育成】</p>	B
<p>(成果) 全校研究テーマの下、各部テーマを設定し、授業づくりに取り組んだ。各部の課題が明確になり、外部講師から指導助言を受けることで、より教職員の授業力の向上につながった。</p> <p>(課題) 各部の取組について情報を共有する機会が少なかった。</p>	2 聾教育の専門性の向上	<p>①個に応じたコミュニケーション手段の活用の推進【伝え合い分かり合う喜び】</p> <p>②日本語による「読み」「書き」能力の向上 【確かな日本語の習得】</p> <p>③情報を正しく理解し、適切に表現する力の育成【豊かな表現力の育成】</p>	B
<p>(成果) 学校運営協議会において、本校の現状や課題を示すことで委員の方々から、具体的な案をいただくことができた。多くの方々との繋がりができ、次年度に実践できる具体案を検討できた。</p> <p>(課題) 本校の子供達が直接、参加できる機会が少なかった。</p>	3 確かな学力の向上を目指す授業づくり	<p>①専門家と連携した「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善【子どもの学びの充実】</p> <p>②教科学習を支える言語力、思考力の育成【確かな学力の向上】</p> <p>③個別最適な学びを重視した学習場面に応じた効果的なICT活用の推進【ICT活用】</p>	B
<p>(成果) 少人数での意見交換を中心とした研修を継続することで、教職員一人一人が様々な事案に向かい合い、自分事として捉えることができた。実施した研修内容や教職員からの意見を取り入れたコンプライアンス・マニュアルを作成、活用することができた。</p> <p>(課題) 活用を通してのコンプライアンス・マニュアルの見直しが必要である。</p>	4 センターの機能の充実と地域との連携	<p>1 早期教育相談、通級指導教室の充実 (聴覚障害教育の保障)</p> <p>②幼児教育施設、小・中学校等に在籍する聴覚障害児や担当教員への支援【専門性を活かした支援】</p> <p>③きこえとことばの相談支援センターの役割の強化【センター的機能の強化】</p> <p>④地域との連携強化 (コミュニティスクール、地域連携充実事業など)【地域との連携強化】</p>	B
<p>行事や授業研究会が重なり、業務過多の時期があった。多くの教職員が一人で授業を担当しているため、授業準備の時間を要している。</p> <p>(成果) 幼児児童生徒の言語力の育成のために、実態やねらいに応じて、ICTを活用することができた。</p> <p>(課題) ICTを活用して得た情報について、正しく理解、活用できているのか、その都度、確認が必要である。</p>	5 自立と社会参加に向けたキャリア教育の充実	<p>①発達段階に応じた基本的な生活習慣の確立【個に応じた支援】</p> <p>②各部の系統性を踏まえたキャリア教育の推進【系統的なキャリア教育の実施】</p> <p>③進路選択に向けた体験的な学習の充実と実践【キャリア教育の充実】</p> <p>④交流及び共同学習の推進【豊かな人間性の育成】</p> <p>⑤教員のワーク・ライフ・バランスを意識した働き方の推進 (働くことの楽しさや喜びを幼児児童生徒に示す)【働き方改革】</p>	B

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)
学校経営管理教育計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児児童生徒、保護者、地域等から信頼される安全安心な学校づくり。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児児童生徒の実態を十分に配慮した細かな視点を取り入れた安全点検を実施し、対応する。</li> <li>・防災、捜索、アレルギーなどに対応した訓練を行い、職員全員が緊急時に基本的な対応ができるようにする。</li> <li>・外部関係者との連携による校内巡視、様々な災害を想定した危機対応マニュアルを見直し、シミュレーションを行う。</li> <li>・いじめや自殺防止のための学校生活に関するアンケートの実施やオンライン相談窓口を活用し、幼児児童生徒の安全な学校づくりに努める。</li> <li>・安全安心な通学指導を推進する。</li> </ul>	1-①②③	B	<p>○阿見町と連携した防災教室を実施し、保護者も参加し障害種に特化した災害時の避難について情報を共有できた。</p> <p>○学校アンケートの実施やオンライン相談窓口の活用により、問題を早めに捉え、学校全体でいじめの未然防止ができた。</p> <p>●不審者対策の強化のためモニターの設置や避難訓練時の聴覚障害の職員に対する伝達訓練を行う。</p>
教職員の育成及び指導・監督	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児児童生徒一人一人に応じたコミュニケーション力の伸長、基礎</li> <li>・基本の定着と確かな学力の向上を目指した授業づくりの推進。</li> <li>・自立と社会参加に向けたキャリア教育の推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児児童生徒の学びの姿を想定した授業改善、システムづくりに取り組む。</li> <li>・各部の研究成果を、実践検証しながら授業改善のシステムに組み込む。授業参観を実施し、意見交換をすると共に聴覚障害以外の障害を有する幼児児童生徒の実態把握に基づく指導支援を検討、実践する。</li> <li>・「教科学習を支える言語力・思考力の育成」をテーマとした各部の研修を推進し、相互に授業を参観する時間を設定し、授業改善に取り組む。</li> <li>・自立活動における聴覚保障を整備し、一人一人のコミュニケーション力を伸ばす。</li> <li>・外部専門家を活用し、聴覚活用とことばの発達についての理解を深める。</li> <li>・キャリア教育をとおして、人間関係形成能力や情報活用能力、将来設計能力、意思決定能力など自立と社会参加に向けた力を育成する。</li> <li>・児童生徒に対して授業に関するアンケートを実施し、理解度や問題点を検討し、授業改善に取り組む。</li> </ul>	2-①②③ 3-①②③ 5-①②③	B	<p>○教員相互に授業参観を行い、自分の授業について見直す機会となった。各部の研修を深め、言語力、思考力の実態に基づく授業改善を行うことができた。</p> <p>○外部専門家を計画的に活用し、聴覚活用やことばの発達における指導を行うことができた。</p> <p>●校内支援や手話推進の係を中心としたOJTでの職員の聾教育スキルの向上を目指す。</p> <p>●聾教育と教科指導に関する研修を行い、学力の向上を目指す。</p> <p>●個々のコミュニケーション力を伸ばすため自立活動の指導力向上を目指す。</p>
対外活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者、地域、関係機関等と連携し、地域とともにある社会に開かれた学校づくりの推進。</li> <li>・地域のセンター的役割の強化。</li> <li>・交流及び共同学習の推進。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティスクールを通じて地域との連携を図り、幼児児童生徒の豊かな学びを推進する。</li> <li>・HPや広報誌を通して、本校の取り組みを広く発信するとともに、地域の情報を収集し、地域や関係機関等とのつながりを築く。</li> <li>・きこえとことばの相談センターを広く周知し、地域のセンター的役割を強化する。</li> <li>・交流及び共同学習を推進し、幅広い体験をとおして、豊かな人間性を育む。</li> </ul>	4-①②③④ 5-③④	B	<p>○コミュニティスクールを通じた地域との連携を図り、本校の情報発信や幼児児童生徒の経験の幅を広げることができた。</p> <p>●相談センターからの積極的な外部への発信、相談しやすい環境づくりを行い、センター的役割を強化する。</p> <p>●中学部の学校間交流の推進を行うことで体験的な活動を増やし、豊かな心を育てる。</p>

コンプライアンス確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・風通しのよい職場づくり、教職員の日々の服務規律の遵守とコンプライアンス意識の向上。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・服務遵守に関する情報発信、研修を実施し、教職員一人一人の服務規律確保、コンプライアンス意識の向上を図る。</li> <li>・互いの意見を尊重し、質問責任、説明責任を大切にする職場環境づくり。本校独自のコンプライアンス・マニュアルを作成、活用し、教職員一人ひとりが日々、コンプライアンスを意識できるようにする。</li> <li>・人権意識の向上を目指す。</li> </ul>	1-①②③	B	<p>○コンプライアンス研修では別の部署の職員とグループになり話し合いを行うことで、仲間意識を高め、職場の雰囲気をよくすることができた。</p> <p>●コンプライアンス・マニュアルの周知と積極的な活用。</p> <p>●当事者意識を向上するため繰り返し研修を行う。</p>
働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の勤務時間の働き方（業務内容）を見直し、時間外在校時間月 45 時間以内、年間 360 時間以内とする。</li> <li>・授業づくりの時間を確保するとともに効率化を図る。</li> <li>・ICT を活用した業務改善。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務内容や要する時間のデータを基に意見交換を行い、本校の働き方の課題を明確にする。現在、次年度に向け、改善点、具体的な方法を見出し、実施する。</li> <li>・授業準備や評価の具体的な方法や教材について情報交換し、共有することで授業づくりの効率化を図る。</li> <li>・チャットを活用し、打ち合わせの簡略化を行う。</li> </ul>	5-⑤	B	<p>○チャットの活用や AI での会議記録を行い、業務の効率化を進めた。授業づくりに活かせるアプリの研修を行い、教材づくりに活かすことができた。</p> <p>●ICT を活用した業務改善を管理職主導で、積極的に行っていく。</p>
ICT活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児児童生徒の言語獲得、活用、コミュニケーション力を伸長する、個別最適な学びのための ICT 活用を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児児童生徒の学習や生活課題に即した ICT 活用を推進する。</li> <li>・児童生徒の言語に関する実態を十分把握する。ICT 活用の課題に基づき、言語の意味を正しく理解し、活用できるため指導支援を共有、実践する。</li> <li>・情報セキュリティ教育を推進する。</li> </ul>	3-③	B	<p>○授業アンケートでは ICT の活用の満足度は 100%であった。外部講師を活用し、情報セキュリティ教育を行った。</p> <p>●ICT 活用のリーダーを育成し、活用事例を蓄積して、教員間のスキルの差をなくしていきたい。</p>

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない